

「ある単位制高校の一年」(第3回)

宮原 清(九州・沖縄地区理事)

【「時間割づくり」は「人生づくり」】

本校はフレックス型の単位制高校である。学校制度上、「単位制」というのは、学年による教育課程の区分のないものをいう。簡単に言えば、無学年制であり、学習指導要領上のルールに則っていれば、自由に時間割を作成することができる。

単位制といってもその形態は様々で、「全日制課程の単位制」もあれば、「定時制課程の単位制」、「通信制課程の単位制」もある。このように、全国には多数の単位制高校が存在するが、多くは修業年限を実質的に3年や4年にある程度固定して教育課程を提示するなど、実質的に学年制に近い学校も多く、本校のような完全な無学年制をとっている学校は必ずしも多くはない。

フレックス型の単位制高校である本校は、キャリア形成の障害となる学習時間帯や曜日、学習量をほぼ自由に選択できるようにし、修業年数も3年から6年で自由に設定できる。午前中心、午後中心、夜間中心など学ぶ時間帯も自由である。そのことで学びにくい条件を抱えた人でも学ぶことが可能になる。働きながら学ぶことや、体調や家庭の事情に配慮しながら学ぶこと、あるいは自主的な活動をしながら卒業を目指すこともできる。完全単位制であるが故、「時間割づくり」は最も重視される教育活動であり、そのことが教育活動全体を規定しているといっても過言ではない。

マーク・L・サビカスによるキャリア構成カウンセリングの理論は、一人ひとりのナラティブストーリーがカウンセラーとの対話によって引き出され、それにもとづいて自己概念を形成し、これを進路決断や人生の決断につなげるアプローチである。

本校における「時間割づくり」は毎年度行い、卒業まで毎年度修正し続けるという自己探索のプロセスでもある。教師は生徒一人ひとりと対話し、それまでの体験や経験にもとづくストーリーから自己概念形成と将来展望づくりを伴走しながら支援する。

「時間割づくり」とは、単に一人ひとりの進路希望ややりたいことを聴いてづくり方を指導するというものではなく、生徒のナラティブストーリーから自己概念形成、そして進路決断、時間割作成、学習の遂行にかかる学習カウンセリングに至るまで、一定程度の伴走をしながら支援するものである。これが「時間割づくり」は「人生づくり」という所以である。

完全単位制だから、自分だけの時間割をつくることは必須である。つまり、進路目標があ

る程度でも決まらなければ「時間割」がつかれないのである。決して教師や学校が上から進路目標づくりを強制するものではないが、毎年度時間割をつくらなくてはならないという避けられない現実、彼らの発達を促す力となる。

[時間割作成を起点とする1年間の教育活動]

① 自己概念をつくる「自分づくり」

→体験や経験にもとづくストーリーから人生を振り返って自己概念をつくり、自分にとって大切な Must (欠かせないこと) を考える。

② 将来展望をつくる「人生づくり」

→「自己概念」をもとに将来展望を考え、Will (したいこと) をつくる。

③ 卒業までの学習計画と次年度の時間割をつくる「学びづくり」

→将来展望にあわせて、個人に合った最適な学習プランをつくる。

④ 実際に一年間かけて学ぶ「行動化」

→学習プランを実行し、Can (できること) を大きくしていく。

キャリア・デザインにもとづいて考えれば、完全単位制のシステムは上記①～④のプロセスを不可避とし、そのことがキャリア発達上、大変効果的なシステムになると考えている。

実際に筆者がフレックス型単位制の以前在籍していた高校に16年間勤めてきた経験から、「時間割づくり」が毎年度あるおかげで、キャリア教育がきわめて実効性と現実味のあるものになっていた。言い換えれば、毎年度末に行う「時間割づくり」を仮ゴールとしているからこそ、一年間のキャリア教育活動が、具体的で現実的なものとして存在しえた。

【現任校におけるキャリア教育】

以上のことから、本校におけるキャリア教育活動は、生徒一人ひとりの視野に直接訴えかけ、人生全体を漠然と見通すとともに、就職直後や進学直後だけでなく、近未来を一定程度可視化して、生きることや学ぶことの意味を考えさせていくものになる。

今年4月に開課程した本校フレックス型単位制で始まったキャリア教育にかかる実践を一部紹介したい。

「Career Camp (キャリア・キャンプ)」

8月上旬に希望者を募って半日かけて実施した。主なねらいは、①地方における限られた知識や経験しかない生徒たちの視野を拓ける機会をもたせるとともに、②多くの若者の生き方から将来展望を自己の課題として焦点化させることであった。

前者のねらいを達成するために、本学会研究推進委員会の白井章嗣氏（長崎大学）を招聘し、大学で学ぶことの意味や価値を知るための講演をいただいた。大変分かりやすく、しかも幅広い視点から大学で学ぶことの意味をお伝えいただき、生徒はもちろん拝聴した職員もうなるお話であった。以下、振り返りの一部を紹介する。

[白井章嗣先生の講演から]

大学は楽しい。

自分の好きなことを学ぶことが良いと思いました。

日本の未来について少し不安になったり、他の国のことがよくわかって感情を揺らされる講演でした。

これからの日本が変わっていくことが面白いと思いました。

白井先生の講演を聞いて、最初、私はこの講演を聞く前は「大学」と「専門学校」って何が違うんだろう？ってわかりませんでした。でも、白井先生の講演を聞いた後、「そうなんだ！そんなに違いがあったんだな」って思いました。

心理学のことや社会のことを聞いて楽しかった。

色々なことを試す。色々なことに興味を持つことが大切だということが心に残りました。

大学の先生は字が汚いことが分かったのがすげえと思いました。先生はみんな字がきれいじゃなきゃいけないと思っていなので、びっくりしました。

心理学をもっと聞いてみたいなと思った。とても楽しかった。

②のねらいを達成するために、本校の卒業生を5名（地域おこしNPOに所属する保育士、市役所職員、現役大学生、看護師、現役看護学生、白井章嗣氏）による「今、高校にもどるなら」をテーマとしたパネルディスカッションを行うとともに、各卒業生との個別進路相談を実施し、生の声に触れさせ、想いの交流を図った。以下、振り返りの一部を紹介する。

[卒業生の話から]

きっかけとかが知れてよかった。

一人ひとり違う考えを持っていて参考になりました。

先輩の話聞いて、後悔していることがあっても、それでも楽しんでいたことを聞いて、私は「あの時、そうすればよかった！と思ってても、でも、そのことはそのことにしか体験できないことなんだな」と感じました。

皆さんの経験談を聞いてこれからいかしていこうと思った。

高校で後悔しないこと。

高校で学ぶことが多い、全力で楽しむことが大切だと学ぶことができました。

色々な経験談などを聞いて、自分の人生について考えて、発展できる内容でした。

今一生懸命とりくんでいることはある？の質問で全員〇だった。自分は今取り組んでい

ることはないけど、何かに取り組みたいなと思った。

違う考えを持った方がいい。

自分の興味があることをする。

色んな人の経験から話が聞けたので、視野が広がったのでとてもありがたい機会だと思いました。

最初は、質問することに不安だったけれど、進路相談をしてみて、どのアドバイスもとてもためになりました。人と話をするのってなかなか続けられないけど(話す長さのこと)「人生の話」をするのってやっぱり楽しい!と思いました。

一つ夢が増えました。

気になっていることを聞くことができました。これから進路を決めていくにあたって重要な経験になりました。

自分が後悔しないような道を歩く方がいいと思うと言われていたのが、心に残りました。

高校生のうちにやりたいことをやること、勉強をしっかり頑張りたいと思った

視野を広めようと思う。色々なことに挑戦しようと思った。

【フレックス型単位制が示す価値】

キャリアモデルとの現実的な対話は、いずれも発達を促す機会となった。

日頃の学習を含むこうした体験の積み重ねをもとに、教師や大人、友人との対話が鍵となり、具体的な行動へとつながるものと考えている。

「時間割づくり」を仮ゴールとする本校のシステムは、こうした経験を否応なしに「まとめる」時期がやってくる。つまり年度末は、自己概念を再構成するための大変貴重な時間となる。

今回は、「探究的な学び」とキャリア教育について、本校後期の取り組みからご紹介します。